

# 令和5年度 鹿児島学習定着度調査の結果について

令和6年3月  
鹿児島市立松原小学校

- 【学力調査】 令和6年1月16日(火)・17日(水)に実施
- ・ 小学校第5学年(国語、社会、算数、理科)
  - ・ 「基礎・基本」と「思考・表現」に関する内容の調査
- 【学習状況調査】 児童の学習に関する意識や学び方等の調査

このような問題が出題されました(社会)  
会話文や地図、グラフなど複数の資料を基に、  
考察したこと等を書く問題  
(思考力・判断力・表現力の評価)

## 1 本校の結果について (R5年度)

鹿児島県平均を100としたときの松原小の比較値

	国語	社会	算数	理科
松原小学校	88	81	89	97

### 【結果分析から分かったこと ○成果 ●課題】

〈国語〉

- 目的や場に応じて適切な敬語を使うこと、慣用句等の意味理解
- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫

〈社会〉

- 日本の周りの国々の位置の理解、特徴的な気候について理解
- 米の消費量の増大に向けた、国や市の取組の理由について説明

- 伴って変わる量から混み具合を判断、折れ線グラフから数量の読み取り

- 図に関連付けて単位量当たりの大きさを求める除法の立式

〈理科〉

- 植物の成長、骨と骨のつなぎ目の名称、方位磁針の使い方
- 温度による溶ける量の違いについて、予想したことに対する実験結果の見通しを適切に考えること

### 過去5年間の各教科における経年比較

年度	国語	社会	算数	理科
R1	90	91	99	89
R2	93	94	104	88
R3	87	78	63	81
R4	95	106	95	97
R5	88	81	89	97

- ・ 4教科で県平均を下回る結果となった。年度内に補充指導するための問題を作成して取り組めるようにしている。
- ・ 理科はあと1問、国語・算数はあと2問正答すれば県平均を超えられる。
- ・ 理科は昨年度に続き、過去4年間で最もよい正答率であった。
- ・ 今年度の国語・社会は、無答率が例年より高くなっており、最後まで解き切る力を付けることも課題である。

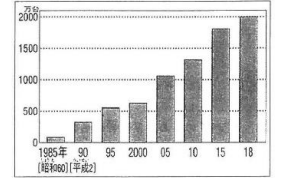
6 Aさんたちは、自動車を作る工業について、資料1と資料2から読み取ったことを話し合っています。3人の話し合いを読んで、あとの問いに書きましょう。

Aさん: 資料1から、自動車工場の周りには、関連工場が多くあることが分かるね。  
Bさん: なぜ、自動車工場の周りに関連工場が多くあるのかな。  
Cさん: それは、自動車工場にとって、(①)というよさがあるからだよ。  
Aさん: そうだね。ところで、資料2を見ると、海外生産(現地生産)が増えているよ。  
Bさん: 本当だ。海外生産をすることで、現地の人にとって、どんなよさがあるのかな。  
Cさん: それは、(②)というよさがあると思うよ。  
Aさん: そうだね。日本はこれから海外生産だけを進めていけばよいのかな。  
Bさん: それだけではないと思うよ。これからは、お客さんの様々な願いに合った自動車を開発していく必要があると思うよ。  
Cさん: そうだね。これからは、③環境にやさしい自動車や人にやさしい自動車を開発することが大切だね。

(資料1) 自動車工場と関連工場の分布



(資料2) 自動車の海外での生産台数の変化



(1) ①にあてはまる文章を次のア～エから一つ選び、□の中に記号を書きましょう。

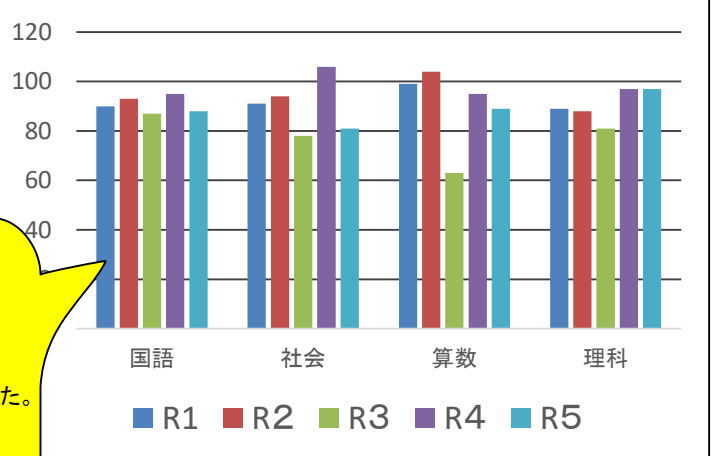
- ア ロボットによる作業だけで自動車を組み立てることができる
- イ 余分な部品を運ぶ必要がないので、むだなくつくることができる
- ウ お客の好みに合った車を開発することができる
- エ 少ない部品でつくることができる

(2) ②にあてはまる文章を次の□の中に書きましょう。

(3) ③の組合せとして最もふさわしいものを下のア～エから一つ選び、□の中に記号を書きましょう。

	環境にやさしい車	人にやさしい車
ア	手だけで運転できる自動車	ハイブリッドカー
イ	燃料電池自動車	ハイブリッドカー
ウ	燃料電池自動車	車いすのまま乗りおりできる車
エ	手だけで運転できる自動車	車いすのまま乗りおりできる車

### 県平均を100とした時の松原小の経年比較



## 2 学校全体での学力向上対策

- 「分かる・できる授業」を目指し、ICT機器を活用した教育方法改善と指導法改善を行う。
- 朝の活動25分間のチャレンジタイムを充実させ、基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 最後まで解き切る力を高めるために、授業あるいは日々課題として取り組ませる練習問題について質、量の両面から検討し、準備する。
- 基本的な生活習慣(生活リズム)と家庭での学習習慣を確立するため、生活実態調査(メディア使用、学習時間等)の実施や、家庭学習課題(日々課題、週末課題)の取組等を充実させる。